

**学術講演：学術講演会・産学連携フォーラム合同
講演会「リサーチインテグレーションと産学連携」
開会の挨拶**

著者	西尾 茂文
雑誌名	生産研究
巻	56
号	4
ページ	273-343
発行年	2004
URL	http://hdl.handle.net/2261/00078671

学術講演会・産学連携フォーラム合同講演会

「リサーチインテグレーションと産学連携」

開会の挨拶

西尾 茂文 (東京大学生産技術研究所 所長)

本日は、お忙しいところ、朝早くから多数の皆さまにおこしいただきまして大変ありがとうございます。また、日ごろより、東京大学生産技術研究所の研究教育活動に関しまして多大なご支援をいただいております、厚く御礼を申し上げます。

きょうの学術講演会・産学連携フォーラム合同講演会というのは、学術講演会と産学連携フォーラムは従来別個に開催しております、学術講演会のほうは、大学の研究教育はどうあるべきかということを中心に議論する場として恒例化しております。産学連携フォーラムのほうは、生産技術研究所設立以来、産学連携に努めてまいりましたけれども、その新しいあり方、あるいは情報交換等を議論する場として2つの別個の会でございましたが、法人化を前にしまして、われわれのメッセージをぜひ聞いていただきたいということで今回合同の講演会ということで企画をさせていただきました。幸いなことに380名ぐらいの方の事前登録をいただいているということで、午後になります会場に入りきれぬかどうかということの主催者側としては心配をしておりますが、きょう夕方までございますので、ぜひいろいろなご意見・ご討論をお願いをいたしたいと思っております。

生産技術研究所は、ご承知のように六本木にございましたけれども、約3年前に駒場リサーチキャンパスのほうに移転をいたしました。大変立派な建物を建てていただきました。また新しく(もう着工が目の前にきてますけれども)5,000平米の建屋を建てていただくということで、国から大変大きな投資を受けていると思っております。

それに対して、われわれが法人化を前にしてどういうことを考え、産業界あるいは官界の方とどういうことを一緒にやらせていただこうかと思っているかということをお互いのほうからプレゼンテーションさせていただくとともに、文部科学省からは田中課長様、経済産業省からは窪田課長様がいらっしやいましてご講演をいただくことになってございます。また、午後には、プログラムにもありますように荏原の大下様、トヨタの岡本様、東芝の笠見様、三

菱重工の柘植様を交えて産・官・学の連携、特に産学の連携のあり方をパネルディスカッションとして議論させていただきたいと思っております。

われわれがきょうこの表題に掲げました「リサーチインテグレーションと産学連携」につきましては、まず、大学における研究の第一義は、「自由な発想による課題選定」であると思っております。このことが研究の多様性をもたらして、知の創出、あるいは蓄積というものの源泉であろうと思っております。逆にいえば、大学の研究にはさまざまな方向のベクトルがあるのが健全である、ということができると思います。ただし、いままでのわが国の大学は、これ以上のことに積極性をもってこなかったというのが現実ではなかろうかと思っております。

ご承知のように、科学技術がもたらした社会システムが資源・環境問題のように非常に大きな問題をわれわれに突きつけているのが現在でございます。したがって、単に多様性を保証するにとどまることなく、未来の社会に対するビジョンを構築して創出・蓄積されました知を、そのビジョンのもとに総合して課題解決に当たる努力が大学に求められているというふうに思っております。

また、先端科学技術のようにシーズが価値を創成していく社会、あるいは知の国際的優位性が産業競争力に影響を多大に及ぼす時代が到来しているというのが現在であるとわれわれは思っております。換言すれば、多様性と総合性とを二本の足として、二足歩行する大学が求められていると考えております。こうした認識を踏まえまして私の所属する東京大学生産技術研究所では、国際総合工学研究所としての特徴を生かして多様性を保証するとともに、課題解決及び価値創成を必要とする主要研究課題を5つにまとめ、各研究室の研究課題をその中にマッピングしまして、各領域について専門分野を超えた総合的研究を研究グループとして推進するリサーチインテグレーションという試みを開始をいたしました。本日の第一テーマは、このリサーチインテグレーションという試みでございます。

また本所は、設立以来さまざまな産学官連携を先導してきたつもりでございます。これまでの連携様式は多様性のもとに生まれた研究成果を個々に社会に還元するという、ある意味では学提案型が主体であったと思いますが、これに加えて企業から多様な課題提案を受け、われわれも同時に課題提案をさせていただき、産学連携の機会を保証する技術交流会という制度を開始をいたしました。そのみならず先ほど申し上げましたリサーチインテグレーションを

中心としてビジョンや価値創成を社会と共有して戦略性を意識した産学官連携を行う未来開拓連携というものを構想しております。

こういう現在の生産技術研究所の方向性でございますが、これからのプレゼンテーションでそれぞれの内容がご紹介できると思いますので、ぜひ、長い時間でございますけれども、よろしく願いをいたしたいと思っております。